

施策マネジメントシート(28年度目標達成度評価)

シート1 作成日 平成 29 年 6 月 30 日
更新日 平成 29 年 7 月 24 日

施策体系

政策名(基本方針)	4	生活環境の健康	施策名	18	住環境の充実
-----------	---	---------	-----	----	--------

施策統括部	事業部	関係課	農政課、まちづくり対策室、総務課、環境衛生課、交通防災課
施策主管課	都市計画課		

1 施策の目的と指標

対象	市民	意図	快適な住環境で暮らすことができる
----	----	----	------------------

成果指標

名称		単位
A	よい住環境であると答えた市民の割合[市民アンケート]	%
B		
C		
D		

2 指標等の推移

成果指標	26年度現状値	数値区分	28年度	29年度	30年度	31年度	評価	背景として考えられること	
A	%	90.4	成り行き値	90.3	90.2	90.1	90.0	○	市民との協働により良好な住環境が保たれている。
			目標値	91.6	92.2	92.8	93.4		
			実績値	92.7					
B	0		成り行き値						
			目標値						
			実績値						
C	0		成り行き値						
			目標値						
			実績値						
D			成り行き値						
			目標値						
			実績値						

※【評価】 ○; 目標達成 △; 目標をほぼ達成(-5%) ×; 目標を未達成

事務事業数・コスト			28年度	29年度	30年度	31年度
事務事業数		本数	22			
事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	26,899		
		都道府県支出金	千円	1,055		
		地方債	千円	25,500		
		その他	千円	700		
		繰入金	千円	0		
		一般財源	千円	88,660		
	事業費計 (A)		千円	142,814		
(A)のうち指定経費		千円	1,580			
(A)のうち時間外、特殊勤務手当		千円	132			
人件費	延べ業務時間		時間	7,585		
	人件費計 (B)		千円	28,345		
トータルコスト(A)+(B)		千円	171,159			

3 施策の特性・状況変化・住民意見等

【1】施策の方針

- ・土地利用基本計画に基づき里山を保全します。(みどりの景観の保全より)
- ・快適な住環境をめざし、市民の身近な公共施設を計画的に更新します。

【2】協働によるまちづくりの具体策(市民と行政の役割分担)

ア)住民(事業所、地域、団体)の役割

- ・市民は、身近なところからよい住環境になるよう意識して行動します。
- ・市民は、公園等の公共施設を大切に利用します。
- ・地域では、公共施設がみんなの施設であることを認識し、維持管理等に積極的に協力します。

イ)行政の役割(市がやるべきこと)

- ・市は、市民との協働により、良好な住環境をつくりあげるための取り組みを進めます。(啓発、指導を含む。)
- ・市は、市民が、安心して安全に使用できるよう公共施設等の整備、維持管理を行います。
- ・市は、公害の防止について、法令等に基づき適切な指導を行います。

【3】成果指標の目標設定とその根拠(上段)・成果指標の測定企画(下段)

A	<p>よい住環境であると答えた市民の割合は、平成26年度の実績値では高い水準にあるが、公園等施設の老朽化やそれぞれの価値観等の違いによる騒音、悪臭等への苦情が微増すると想定すると、成り行き値は、微減すると考え、平成31年度を90.0%にしました。</p> <p>目標値については、今後、公共施設の維持管理を適正に図り、市民との協働を進めることによって、よい住環境を整備できると考え、年度ごとに0.6%増をめざし、平成31年度を93.4%に設定しました。</p>
B	
C	
D	

【4】施策の現状と今後の状況変化

- ・築年数が経過した市営住宅が多く、老朽化しているため今後改修が必要になります。
- ・超高齢化社会になってきているため、市営住宅の居住者も高齢化し、バリアフリー化を望む声がさらに強くなります。
- ・自衛隊演習場のヘリコプターの騒音に対する苦情が寄せられています。周辺の宅地化が進めばさらに多くなることが予想されます。
- ・市民一人当たりの公園面積は、平成23年度は国の基準を上回っていましたが、人口増加により基準を下回っています。また、遊具施設等の老朽化が進み改修等が必要です。
- ・市の人口は増えているが、一方で高齢化に伴う空き家等の増加もみられ、市としての対策が求められることが予想されます。
- ・悪臭や鳥獣被害、焼却による煙等の問題は、今後さらに深刻化することが懸念されます。

【5】この施策に対して住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？

- ・山林が荒れることに伴い、不法投棄が増えているとの声が市民から寄せられている。
- ・市民ワークショップで「緑豊かな地形で、景観がよく空気がきれい。」「緑が豊かで住みやすい」「住宅地の近くに自然が多く残っている」「大きな河川がない」との意見があった。
- (平成28年度(平成27年度振り返り)の施策評価における議会意見)
- ・災害時避難場所の確保及び設定を図り、今後の開発には広めの公園を義務づけ、子どもの遊び場、避難場所の機能を併せ持たせること。
- ・台風やゲリラ豪雨に対応した冠水対策を図ること。
- (平成28年度(平成27年度振り返り)の施策評価における総合政策審議会意見)
- ・商業地の充実を図ること。
- ・安全な住環境を整備すること。
- ・子どもが遊べる環境を充実すること。

4 施策の評価

【1】 施策の振り返り(施策の方針、経営方針の達成度等)

- ※ 経営方針からの振り返り、貢献度評価の上位の事務事業を記載
- (1)平成28年度の経営方針からの振り返りは、以下のとおり。
- ①「市営住宅の長寿命化計画を基に、計画的に整備・維持管理を行なっていく」については、市営住宅地内の老朽化した施設を計画的に整備を進めている。
 - ②「広報紙及びホームページを作成し、農村集落竹林整備事業の周知を図るとともに里山や樹木等の管理について住民啓発を推進していく」については、引き続き啓発を進めて行く。
 - ③空家等については、空家等対策推進協議会を5回開催し、H29.3月に合志市空家等対策計画の策定及び空家台帳を作成した。平成29年度以降はまちづくり会社を活用した市ホームページでの空家バンクの開設及び、対策計画に基づき所有者の意思を尊重した空き家等の利活用を推進し、空き家等の増加抑止を図っていく。
 - ④「安心・安全な公園の維持管理に努める。」については、定期点検や日常点検に基づき、適正な公園の維持管理に努めている。
- (2)事務事業貢献度評価の結果では、平成28年度施策の成果を向上させるために最も貢献した事務事業として、ごみ一時保管所整備費補助事業があげられた。また貢献した事務事業として、市営住宅整備事業、空家対策等事業があげられた。

【2】施策の課題

- ・市営住宅の長寿命化計画に基づく維持管理が必要です。
- ・より良い住環境にしようという意識の啓発が必要です。
- ・公園の計画的な改修が必要です。
- ・ごみ等のポイ捨てや焼却に対する規制対策の充実が必要です。
- ・荒地となり、手入れが困難となった土地等の適正な管理が必要です。

5 施策の28年度結果に対する審査結果

① 政策推進本部での指摘事項(施策目標達成度評価結果報告を受けて・・・平成29年7月24日)

- ・成果指標では目標を十分達成しており、良い住環境であるという現状を維持していくことが必要。
- ・空き家等対策計画に基づき、今後具体的に進めていく必要がある。

② 総合政策審議会での指摘事項(平成29年8月9日、16日、24日まとめ)

- ・安全な住環境の整備を図ること
- ・空き家対策に努めること
- ・地域の交流の場の充実を図ること
- ・美しい住環境の整備に取り組むこと

③ 議会の行政評価における指摘事項(平成29年9月22日)

- ・空家対策については、国・県の動向を見ながら、市の特性に配慮しつつ、積極的に推進すること
- ・竹林整備を積極的に推進し、雑木林の整備に努めること

6 次年度に向けた取り組み方針

● 政策推進本部 平成30年度合志市経営方針(平成29年9月27日)

- ①市営住宅の長寿命化計画を基に、計画的に整備・維持管理を行なっていく。
- ②広報紙及びホームページを活用し、農村集落竹林整備事業の周知を図るとともに里山や樹木等の管理について住民啓発を推進していく。
- ③空家等対策については、空家対策特別措置法並びに合志市空家等対策計画に基づき官民一体となり、空き家等の利活用や危険空き家の除却を推進し、安心・安全な住環境づくりに努める。
- ④安心・安全な公園の維持管理に努める。